



2026年3月30日

各位

会社名 古河電気工業株式会社
代表者名 取締役社長 森平 英也
(コード:5801 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員 IR部長 滝田 博子
(TEL. 03-6281-8540)

データセンタ向け放熱・冷却製品の生産に係る設備投資(固定資産の取得)に関するお知らせ

当社は、データセンタ向け水冷モジュールおよび空冷ヒートシンクの生産能力の増強について決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1.設備投資の主旨

当社では、データセンタで用いられる演算装置(CPU・GPU等)の放熱・冷却を行うヒートシンクを開発・設計し、データセンタ向け製品として展開しています。近年は生成AI市場の著しい成長を背景に、データセンタの高発熱化に対応する高性能なヒートシンクへの要求が高まっています。ファンで空気を流しヒートシンクから放熱する空冷方式が現在の主流であり、その需要は伸びていますが、演算装置素子面に搭載したコールドプレート内部に冷却水を流して熱を回収する水冷方式は、高い冷却性能を持つことから、今後データセンタ向けに大きな需要の伸びが見込まれます。

こうした需要に応えるため、当社は、データセンタ向け放熱・冷却製品の主力生産拠点であるFURUKAWA ELECTRIC THERMAL MANAGEMENT SOLUTIONS & PRODUCTS LAGUNA, INC.(フィリピン、以下FTL)の水冷モジュール工場を拡張し、加えてFurukawa FITEL (Thailand) Co., Ltd.(タイ、以下FFT)に水冷モジュールの新工場を設立します。また、古河奇鋳電子(蘇州)有限公司(中国、以下FAZ)とFTLの製造工場においては、空冷ヒートシンクの製造設備を増強します。

当社は今後も高性能・差別化製品の提供により、生成AIの発展を支えるデータセンタの進化と成長著しい通信インフラ分野の発展に貢献してまいります。

2.設備投資の内容

- (1) 主な所在地:フィリピン(FTL)、タイ(FFT)および中国(FAZ)
- (2) 投資額:約550億円(水冷モジュール:約510億円、空冷ヒートシンク:約40億円)

なお、2024年度以降の水冷モジュールの増産に係る投資総額は、本件を含めて約740億円です。

- 2024年7月発表:当社平塚工場とFTLにデータセンタ向け水冷モジュールの製造工場を新設
- 2025年11月発表:FTLの水冷モジュールの製造工場を拡張し、当社平塚工場で関連設備を増強

(3) 本追加投資による量産開始予定

空冷ヒートシンク:2026年7月(FTL、FAZ)

水冷モジュール:2027年1月(FTL)、2028年1月(FFT)

3.今後の見通し

本投資が2026年3月期の連結業績に与える影響は軽微ですが、2026年度以降各拠点での量産開始に合わせて、売上の増加に寄与する見込みです。水冷モジュールの売上は、既に発表済みの生産能力増強の寄与分を含め、2027年度に1,000億円以上、2030年度に4,000億円を計画しております。

以上

参考



FURUKAWA ELECTRIC THERMAL MANAGEMENT SOLUTIONS & PRODUCTS LAGUNA, INC. (FTL)

所在地:フィリピン ラグナテクノパーク工業団地内



Furukawa FITEL (Thailand) Co., Ltd. (FFT)

所在地:タイ アユタヤ県 ロジヤナ工業団地内

※左図は水冷モジュール工場のイメージ



古河奇鋳電子(蘇州)有限公司(FAZ)

所在地:中国 江蘇省蘇州市 蘇州工業園区内